

**日本一元気な愛知** をつくり  
日本の未来をつくる！

# ★ 人が輝くあいち ★

これまでの主な取組実績 (2010～2018年度)



## ◆◆ 目 次 ◆◆

1 医療・健康長寿 .....	1
2 子ども・子育て .....	6
3 障害者福祉・支援 .....	7
4 教育立県あいち・人材創造あいち .....	11
5 女性の活躍促進 .....	19
6 産業人材・雇用 .....	20

# 1 医療・健康長寿

県民の皆さまが健康で長生きできる「健康長寿あいち」の実現に向けた取組を推進！

愛知県健康寿命は全国トップレベル！！

＜健康寿命の都道府県別順位（2018年厚労省発表2016年国民生活基礎調査を基に算出）＞

順位	男性		女性	
1	山梨県	73.21年	愛知県	76.32年
2	埼玉県	73.10年	三重県	76.30年
3	愛知県	73.06年	山梨県	76.22年
4	岐阜県	72.89年	富山県	75.77年
5	石川県	72.67年	島根県	75.74年

※健康寿命：介護を受けたり、病気で寝たきりになることなく、自立して健康に生活できる期間

＜愛知県の健康寿命の推移＞

	2013年	2016年
男性	71.65年	73.06年
女性	74.65年	76.32年

健康福祉分野の予算を充実！！

年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
県の予算総額	2,244,914	2,267,694	2,254,626	2,228,433	2,361,863	2,481,728	2,524,958	2,520,963	2,493,962

（8年間で2,490億円(約111%)の増）

年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
健康福祉費 (対2010比)	328,820 (—)	355,359 (108.1%)	359,287 (109.3%)	359,087 (109.2%)	381,189 (115.9%)	387,550 (117.9%)	※401,786 (122.2%)	※405,146 (123.2%)	412,264 (125.4%)

※他に国保財政安定化  
基金積立金  
2016:2,206百万円  
2017:10,520百万円

8年間で834億円(約125%)の大幅増

年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
医療・福祉 ※扶助費+国保 (対2010比)	242,651 (—)	249,917 (103.0%)	273,651 (112.8%)	283,564 (116.9%)	291,999 (120.3%)	313,975 (129.4%)	※316,554 (130.5%)	※320,861 (132.2%)	324,910 (133.9%)

※他に国保財政安定化  
基金積立金  
2016:2,206百万円  
2017:10,520百万円

8年間で823億円(約134%)の大幅増

## 愛知県の福祉医療制度は全国トップレベル！！

愛知県では、子どもや障害者など一定要件を満たす対象者の医療費自己負担額を公費支給する福祉医療制度について、子ども医療費(入院)を中学卒業まで、障害者医療を、全国で唯一自閉症状群を対象とし、また、一部負担金を徴収しないなど、全国トップレベルの助成を実施

### 子ども医療

- \* 入院：中学卒業まで  
→ 所得制限・一部負担金ともになしは、愛知県はじめ2県のみ
- \* 通院：小学校入学前まで  
→ 所得制限・一部負担金ともになしは、愛知県はじめ6県のみ  
さらに、愛知県内全市町村で中学卒業まで拡充実施

### 障害者医療

- \* 所得制限・一部負担金ともになし → 愛知県はじめ4県
- \* 自閉症、腎臓機能障害4級まで、進行性筋委縮症4～6級を対象 → 愛知県のみ
- \* 身障3級までを対象 → 愛知県はじめ21都道府県
- \* 知的中程度までを対象 → 愛知県はじめ8県
- \* 精神2級までを対象 → 愛知県はじめ7県

### 母子・父子家庭医療

- \* 一部負担金なし → 愛知県はじめ15府県
- \* 父子家庭も対象 → 愛知県はじめ46都道府県

### 後期高齢者福祉医療

- \* 後期高齢者に特化した制度を実施 → 愛知県・大阪府のみ
- \* 寝たきり、認知症高齢者を対象 → 愛知県のみ

《愛知県の福祉医療制度の予算推移》

(百万円)

年度	2007	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
予算額 (対2007比)	17,862 (—)	23,837 (133.5%)	24,047 (134.6%)	24,463 (137.0%)	24,266 (135.9%)	24,251 (135.8%)	24,722 (138.4%)	24,299 (136.0%)	24,212 (135.6%)

11年間64億円(約136%)の大幅増

## 厳しい愛知県財政の中で福祉医療費を充実！！

- 愛知県財政は、リーマンショック等で5千億円超の大幅な税収減となり、2009年度から5年連続で職員の給与カットや大幅な歳出抑制を行うなど極めて厳しい状況にあり、現在も、3千億円超を赤字県債である臨時財政対策債・交付税・基金の取崩し等で穴埋めしての予算編成を余儀なくされており、自前の税収だけでは、予算が組めない極めて厳しい状況にあります。財政力があるという認識は実態とは異なっています。都道府県で財政に余裕があるのは東京都のみで、愛知県も含めて他はすべて、財政に一切余裕はなく、やり繰り算段して苦労して予算を組んでいるのが現状です。
- そうした中であっても、福祉・医療、教育の分野については、予算の確保に注力し、健康福祉費の予算額は、2010年度3,288億円から、2018年度4,122億円と、この8年間で834億円(125.4%)の大幅な増額をしてまいりました。こうした福祉・医療費の決算額(災害救助費を除く民生費と衛生費の合計)を見てみると、2016年度3,981億円で、全国第5位です。
- なお、一般に、福祉事業においては、
  - ・予算・財源に裏打ちされた事業量の確保
  - ・その事業量の福祉サービスを一人でも多くの方に届けられるようにすること
  - ・そのため福祉事業・サービスの提供者となる事業者を育成・確保し、その供給体制を整備すること
  - ・福祉サービスの受け手である対象者を確定することにより、福祉事業の太い流れを作ることが大事であり、ポイントであります。
- 愛知のような都市部では、人口が稠密であることから、こうした福祉サービスを提供する流れが効率的に行われ、多くの方々にサービスを提供することができます。そうした状況においては、サービスの受け手1人当たりの予算額に換算した場合、サービスが効率的に提供されていることの裏腹で1人当たりの予算額は少なくなることが多くなります。逆に、非効率にサービスの提供が行われているところ、すなわち、サービスの受け手が少ない地方では、1人当たりの予算額が相対的に大きくなります。わかりやすく言えば、地方の定員割れのところが数値が大きくなる。これがいいということなら、非効率な福祉事業を推奨することになってしまいます。税金・社会保険料という公金を使う福祉が、非効率でいい、有効な税財源の使い方をしなくていい、というのでは、日本の福祉はやっていけません。県の福祉・医療関係予算は全国第5位であり、充実したものとなっています。



## 《あいち小児保健医療総合センターの3次救急施設の整備》

〔整備費:46億円〕

- ◆ 小児救急の全県的な拠点として、小児専用の集中治療室等を備えた救急棟を整備し、小児3次救急医療を開始(2016.2)
- ◆ 小児救命救急センターに指定(2016.3)
- ◆ 新生児医療の更なる充実を図るため、本館棟を改修し周産期部門を新設(2016.11開所)

## 《精神医療センターの全面改築》

〔整備費:105億円〕

- ◆ 精神科医療の中核病院として先進的な専門医療を提供するため、城山病院を「愛知県精神医療センター」に改称して全面改築(2016.2一部開所、2018.2全面開所)

## 《がんセンターの機能強化》

- ◆ 中央病院(名古屋市) 外来化学療法センターの診療開始(2013.7)  
内視鏡下手術用ロボット「ダヴィンチXi」の導入(2015.7)  
ゲノム医療を推進する個別化医療センターの開設(2017.4)
- ◆ 愛知病院(岡崎市) 岡崎市民病院と統合し、がん診療の機能強化(2019.4予定)

## 《ワクチン予防接種の公費助成の創設》

〔事業費:1.5億円〕

- ◆ 市町村が実施する風しんワクチンの予防接種費用を助成(2013～)

## 《薬草園の開園》

〔整備費:2.8億円〕

- ◆ あいち健康の森に薬草園の開園(2015.4)

## 《県有地を活用した福祉施設の整備推進》

- ◆ 県有地を福祉施設運営事業者へ賃貸する制度を創設(2012.3)

### 《県有地を活用した福祉施設の整備状況》

県有地	整備する民間福祉施設
春日井市高森台 高蔵寺ニュータウン内	◆社会福祉法人 陽和福祉会 小規模特別養護老人ホーム 認知症高齢者グループホーム 訪問看護事業所等〔2014.4開所〕
	◆社会福祉法人 養楽福祉会 障害者支援施設、短期入所 障害者向けグループホーム 就労継続支援事業所等 〔2016.5一部開所〕
	◆社会福祉法人 陽和福祉会 サービス付き高齢者向け住宅 〔2018.5開所〕
豊川市小坂井町 元心身障害者更生相談所	◆社会福祉法人 明世会 医療型障害児入所施設・療養介護 事業所(重症心身障害児者施設) 〔2017.7開所〕

# <「医療プロジェクト」の推進による長寿社会への対応・医療基盤の整備強化>

## 《「地域包括ケアシステム」の構築》

- ◆ 市町村の取組を促進するため、先導的なモデル事業を実施（2014～2017）

## 《認知症に理解の深いまちづくりの先進的なモデル（あいちオレンジタウン構想）の推進》

- ◆ 認知症施策を効果的に推進するため、国立長寿医療研究センターと「認知症施策等の連携に関する協定」を締結（2015.3：全国初）
- ◆ あいち健康の森とその周辺地域を拠点として、認知症に理解の深いまちづくりの先進的なモデルを目指す「あいちオレンジタウン構想」を策定（2017.9）
- ◆ 構想の成果を県内全域に波及させ、認知症の人が尊厳を保ちながら安心して暮らしていける社会を地域が一体となって作っていくため、「愛知県認知症施策推進条例」を制定（2018.12：都道府県では全国初）

## 《医療ツーリズムの推進》

- ◆ 国家戦略特区における新たな規制改革事項として、「医療ツーリズムの推進のための医療滞在ビザの早期発給」を国に提案（2016.11）
- ◆ あいち医療ツーリズム推進協議会を設立し、医療ツーリズム推進に向けた具体的な取組を協議（2017.2～）

## 《モノづくり技術を活かした医療機器産業の育成》

- ◆ メディカルメッセ（医療機器メーカーと医療関係者の要望を受けたモノづくり企業とのマッチング商談会）の開催（2015～）
- ◆ 国立長寿医療研究センター内に、「あいちサービスロボット実用化支援センター」設置（2015）

## 《医療人材の育成》

- ◆ 女性医師が育児をしながら働くことができる体制整備への支援を実施（2015～）
  - \* 女性医師短時間勤務制度等の実施（2015～）
  - \* 女性医師復職トレーニングの実施（2016～）

## 《地域医療を担う看護職員の育成》

- ◆ へき地医療確保看護修学資金の貸与（2015～）

## 2 子ども・子育て応援

子どもを安心して生むことができ、地域をあげて子育てを応援する取組を推進！

### 《子育て支援減税手当の給付》

[2014予算:105億円]

- ◆ 子育て世帯における消費税率引上げの影響を緩和するため、愛知県独自の取組として「子育て支援減税手当」を給付（0歳～中学修了前児童一人あたり10,000円を給付）

### 《保育サービスの一層の充実》

[2018予算:234億円]

- ◆ 待機児童ゼロに向けた保育所の整備促進と保育士の確保対策の推進  
\* 子ども・子育て支援新制度の推進（2015～）
- ◆ 放課後児童クラブの整備・拡充

### 《周産期医療体制の充実》

- ◆ 東三河地域の分娩施設への運営助成（しんしろ助産所(2011～2015)）
- ◆ 総合周産期母子医療センター及び地域周産期母子医療センターの新規指定

指定年度	2012	2013	2014	2015	2018
総合周産期母子医療センター	名古屋大学医学部附属病院	—	豊橋市民病院	名古屋市立大学病院	藤田医科大学病院
地域周産期母子医療センター	名古屋市立大学病院	藤田保健衛生大学病院 愛知医科大学病院	(社福)聖霊会聖霊病院	刈谷豊田総合病院	—

※藤田保健衛生大学は、2018年10月に藤田医科大学に名称変更

### 《児童虐待の防止》

- ◆ 児童相談体制の充実・強化（児童福祉司等専門職員52人増員(2011年度比)）
- ◆ 一時保護所を尾張地区に整備（2015.4開所）
- ◆ 児童相談所と愛知県警察が児童虐待に係る情報共有の協定締結（2018.4）

### 《子どもの貧困対策》

- ◆ 「子どもの貧困対策検討会議」を設置（2016.6）
- ◆ 「愛知子ども調査」の実施（2016.12）
- ◆ 「子どもの貧困対策推進プロジェクトチーム」を設置（2017.5）
- ◆ 「子どもの貧困対策検討会議」から「子どもが輝く未来に向けた提言」をとりまとめ（2017.9）
- ◆ 「子どもが輝く未来へのロードマップ」を公表（2018.2）
- ◆ 「既存社会資源を活用した子ども食堂開設モデル事業」の実施（2018）



障害ある方々が地域で安心して暮らし、社会参加できるあいちづくりを推進！

## 《愛知県障害者差別解消推進条例の制定》

- ◆ 障害者差別解消法（2016.4施行）の趣旨を、広く県民の皆様に周知し、県民各層の差別の解消推進への気運を高め、県民一体となって、障害を理由とする差別の解消の推進を図るため「愛知県障害者差別解消推進条例」を制定（2015.12）

## 《手話言語・障害者コミュニケーション条例の制定》

- ◆ 言語である手話の普及と障害の特性に応じたコミュニケーション手段の利用の促進を図るため、「手話言語の普及及び障害の特性に応じたコミュニケーション手段の利用の促進に関する条例」を制定（2016.10）

## 《愛知県医療療育総合センターの整備》

〔整備費：159億円〕

- ◆ 地域医療再生基金を活用し、障害者の医療・療育の拠点として愛知県心身障害者コロニーを再編整備

2016. 3	リハビリセンター棟 開所
2016. 7	こばと棟（重症心身障害児者病棟） 開所
2016.12	本館棟(病院部門、研究部門、地域療育支援部門など)建築工事 着手
2018年度	全面開所予定

## 《「障害者福祉減税基金」の活用》

〔2014基金積立額：30億円〕

- ◆ 2014年度に創設した愛知県独自の基金を活用し、民間による重症心身障害児者施設等の整備を促進

施設種別	対象施設	定員数	開所時期
重症心身障害児者施設	(社福) 杏嶺会 一宮医療療育センター（一宮市）	120人	2016.1
	(社福) 明世会 信愛医療療育センター（豊川市）	64人	2017.7
障害者支援施設	(社福) 養楽福祉会 はるひ荘（春日井市）	40人	2017.7

## 《重症心身障害児者の入所施設の整備》

重症心身障害児者施設の整備主体		病床数	開所時期
県	愛知県医療療育総合センターこぼと棟	120床	2016.7開所 〔整備費：41億円〕 ※リハビリセンター棟含む
	愛知県三河青い鳥医療療育センター	90床	2016.4開所 〔整備費：53億円〕
名古屋市	ティンクルなごや（クオティライフ21城北内）	90床	2015.4開所 〔県助成：2億円〕
民間	（社福）杏嶺会 一宮医療療育センター	120床	2016.1開所 〔県助成：13.5億円〕
	（社福）明世会 信愛医療療育センター	64床	2017.7開所 〔県助成：8.8億円〕

<2013年4月>		<b>倍増</b>
4施設	382床	
県立	2施設	300床
国立機構	2施設	82床
<2017年7月>		
8施設	694床	
県立	3施設	330床
国立機構	2施設	90床
名古屋市立	1施設	90床
民間法人	2施設	184床

## 《既存の戸建て住宅を活用したグループホームの整備促進》

- ◆ 愛知県独自の緩和策として「既存の戸建て住宅を障害者グループホームとして活用する場合の取扱要綱」を制定（2014.4）  
緩和策を活用した民間グループホームの整備（24件）

## 《障害者の社会参加の支援》

- ◆ 「あいちアール・ブリュット展」（2017年からは「あいちアール・ブリュット障害者アーツ展」）を開催（2014～）
- ◆ 「第16回全国障害者芸術・文化祭あいち大会」を開催（2016.12）
- ◆ 「絵を描くこと」を仕事とする障害者アート雇用を推進（2016～）  
\*12人が一般企業に就職（2018.11時点）
- ◆ 障害者アートをデザインに取り入れたノベルティグッズの製作などアティックアートとの連携（2016～）

## 《特別支援教育の充実》

◆ 「愛知県特別支援教育推進計画（愛知・つながりプラン）」を策定（第1期：2014.3、第2期：2018.12）

◆ 特別支援学校の整備〔総整備費：170億円〕

いなざわ特別支援学校を開校 (2014.4 開校(57学級313人))	一宮東特別支援学校及び佐織特別支援学校の過大化を解消
豊橋特別支援学校山嶺教室を開設 (2014.4開校(県立田口高校内(設楽町)2学級4人))	東三河山間地域から特別支援学校への長時間通学を解消
瀬戸市立瀬戸特別支援学校光陵校舎への支援 (2014.4開校(14学級35人))	瀬戸特別支援学校の過大化を解消
豊橋市立くすのき特別支援学校への支援 (2015.4開校(49学級253人))	豊川特別支援学校の過大化を解消
名古屋市立南養護学校分校への支援 (2015.4開校(16学級64人))	南養護学校の児童生徒の増加に対応
大府もちのき特別支援学校を開校 (2018.4開校(47学級247人))	半田特別支援学校の過大化を解消
刈谷市立刈谷特別支援学校への支援 (2018.4開校(15学級29人))	刈谷市、高浜市、知立市から肢体不自由特別支援学校への長時間通学を解消
瀬戸つばき特別支援学校の整備 (2019.4開校予定(45学級252人))	春日台特別支援学校の過大化を解消
みあい特別支援学校の校舎増築 (2020.4使用開始予定(12教室))	みあい特別支援学校の教室不足を解消
西三河南部地区新設特別支援学校の整備 (2022.4開校予定(57学級240人))	安城特別支援学校の過大化を解消、岡崎特別支援学校への長時間通学を解消 県内初の知的障害と肢体不自由の併設



豊橋特別支援学校山嶺教室の開校



大府もちのき特別支援学校の開校

◆ スクールバスの増車

年度	知的障害	肢体不自由
2011	1台(春日台)	—
2012	2台(豊川、三好各1台)	—
2014	7台(半田、春日台各1台、いなざわ5台)※1	3台(ひらぎ、港、岡崎各1台)
2015	5台(安城2台、みあい、春日台、三好各1台)※2	3台(豊橋、一宮、小牧各1台)
2016	2台(佐織、いなざわ各1台)	2台(港、岡崎各1台)
2018	4台(大府もちのき)※3	—

※1 うち3台は一宮東特支、佐織特支から配置替え

※2 うち3台は豊川特支から配置替え

※3 うち3台は半田特支、三好特支から配置替え

## 《特別支援学校の環境整備》

### ◆ 医療的ケアの充実

県立肢体不自由特別支援学校全7校に、各1人の常勤看護師を配置（2014～）

→ 医療的ケア(たんの吸引、経管栄養、導尿等)が必要な児童生徒に対し、適切なケアを提供

### ◆ 特別支援学校の空調整備 [総整備費：25.7億円]

\* 2017年度から設計開始

\* すべての教室に設置する計画を1年前倒しし、普通教室は2019年夏、特別教室は2020年夏に供用開始予定

	普通教室				特別教室			
	設置済	工事年度			設置済	工事年度		
		2018	2019	2020		2018	2019	2020
完成年度別室数	540室	340室	263室	—	219室	13室	217室	145室

### ◆ 特別支援学校のトイレ環境の抜本的改善

\* 長寿命化計画の一部を前倒し、2019～2023年度までの5年間で、特別支援学校（肢体不自由を除く）の普通教室棟及び管理棟の全ての湿式床トイレ350か所の全面改修（乾式化・洋式化）を進め、トイレ環境を抜本的に改善

《特別支援学校トイレ改修スケジュール》

年度	2019	2020	2021	2022	2023	合計
トイレ箇所数	設計	88	79	82	101	350

## 《小中学校における特別支援教育の充実》

### ◆ 小中学校において、対象児童生徒1人からでも特別支援学級の新設を可能に

小学校：2015年度から 中学校：2016年度から

# 4 教育立県あいち・人材創造あいち

次代の愛知を担う子どもや若者たちの教育・人材育成を推進！

全国上位レベルの教育予算を確保し、効率的に教育の充実を推進！！

○県費負担教職員給与負担の名古屋市への移譲が行われる前の直近2016年度と2010年度の予算額を比較した場合、2010年度5,675億円から、2016年度5,754億円と、79億円(101.4%)の増額をしてきました。また、小・中・高・特別支援を合わせた県と市町村の教育費(地方教育費)の決算額を見ると、2016年度6,651億円で全国第4位です。

《教育費予算総額》 県のみ

※知事就任前直近の2010年度と県費負担教職員給与負担の名古屋市移譲前直近の2016年度の予算・決算額で比較

	2010年度	2016年度	増減額	増減率
当初予算	570,757,179千円	572,319,892千円	1,562,713千円	100.3%
最終予算※	567,491,196千円	575,392,478千円	7,901,282千円	101.4%
決算額	562,520,054千円	570,766,024千円	8,246,970千円	101.5%

※2月補正後の予算額

《地方教育費総額》 県+市町村 [ ]は全国順位

	2010年度	2016年度	増減額	増減率
小学校	327,175,502千円[4]	322,131,148千円[4]	▲5,043,354千円	98.5%
中学校	175,815,562千円[5]	170,949,036千円[5]	▲4,866,526千円	97.2%
高等学校(全日制)	115,630,580千円[5]	130,540,464千円[4]	14,909,884千円	112.9%
特別支援学校	36,483,459千円[8]	41,497,025千円[6]	5,013,566千円	113.7%
合計	655,104,103千円[4]	665,117,673千円[4]	10,013,570千円	101.5%

出典：平成23年度地方教育費調査、平成29年度地方教育費調査

※小・中学校については、教職員の若返りで人件費が縮減されている影響が大きいと考えられる。



《教育費に占める人件費の割合》

2010年度	2016年度
84.5%	81.6%

※教職員の人件費は国(1/3)と県(2/3)で負担

《教職員の平均年齢推移》 [ ]は全国順位(順位が低いほど年齢が若い)

	2010年度		2016年度		平均年齢増減	
	愛知県	全国	愛知県	全国	愛知県	全国
小学校	43.5[41]	44.4	41.3[43]	43.4	▲2.2	▲1.0
中学校	41.2[46]	44.2	39.9[47]	43.9	▲1.3	▲0.3
高等学校	45.1[26]	45.8	43.7[46]	46.0	▲1.4	0.2
特別支援学校	41.3[43]	43.5	41.4[43]	43.2	0.1	▲0.3

愛知の公立学校は一定規模を維持！！

○全国的に児童生徒数が急減期に入り、1校当たりの児童生徒数が減少する中、愛知の公立学校在学者数はほぼ横ばいで推移しており、各学校は一定規模を維持しています。

《公立学校在学者の増減(2002年度⇒2016年度)》

	小学校		中学校		高等学校(全日制)		
	都道府県名	増減率	都道府県名	増減率	都道府県名	増減率	
全国平均		89.4%		87.1%		81.1%	
全国 順位	1位	東京都	106.6%	神奈川県	103.3%	神奈川県	99.4%
	2位	神奈川県	99.8%	東京都	100.9%	愛知県	97.3%
	3位	愛知県	98.6%	愛知県	99.0%	東京都	94.3%
	4位	滋賀県	96.6%	大阪府	96.1%	大阪府	92.9%
	5位	千葉県	96.1%	千葉県	94.7%	埼玉県	89.8%
	～						
	43位	山梨県	74.7%	鹿児島県	72.8%	愛媛県	67.9%
	44位	岩手県	72.5%	青森県	72.5%	秋田県	67.8%
	45位	福島県	69.9%	福島県	71.4%	新潟県	67.7%
	46位	秋田県	69.2%	長崎県	70.3%	青森県	67.1%
47位	青森県	68.0%	秋田県	67.5%	鹿児島県	64.9%	

## 1校当たりの教育費も充実！！

○日本の教育は、各学校において、教育集団が子どもたちへの学習指導を行うことで成り立っており、より充実した教育が行えるかどうかは、教員の配置を含め、それぞれの学校にどれだけ投資をし、教育環境を整備するかにかかっています。愛知県の1学校当たりの教育費は充実しています。

《公立学校1校当たりの教育費(2016年度)》 [ ]は全国順位

	小学校		中学校		高等学校(全日制)		特別支援学校	
	学校数	1校当たり教育費	学校数	1校当たり教育費	学校数	1校当たり教育費	学校数	1校当たり教育費
東京都	1,280校	438,831千円[1]	614校	478,396千円[1]	173校	950,350千円[3]	63校	1,512,216千円[1]
神奈川県	854校	402,974千円[2]	410校	438,724千円[2]	153校	916,020千円[4]	47校	1,159,317千円[3]
埼玉県	814校	344,757千円[4]	415校	397,777千円[9]	142校	873,288千円[8]	44校	1,037,528千円[8]
愛知県	971校	331,752千円[7]	418校	408,969千円[8]	161校	810,810千円[13]	37校	1,121,541千円[4]
大阪府	995校	364,746千円[3]	461校	427,292千円[3]	157校	980,213千円[2]	50校	1,183,752千円[2]
兵庫県	758校	334,374千円[6]	343校	389,710千円[13]	142校	880,524千円[7]	46校	1,026,960千円[10]
全国平均	426校	296,349千円	203校	355,528千円	73校	756,896千円	23校	927,572千円

出典：平成29年度地方教育費調査

○都市部が多い愛知県では、効率的な学校・学級編成を行うことが可能であるため、在学者1人当たりで割り戻した地方教育費(学校教育費)の額は低くなる傾向にあります。

《公立学校1校当たりの平均人数》

	2010年度		2016年度	
	愛知	全国	愛知	全国
小学校	442.8人	316.4人	424.2人	318.2人
中学校	494.4人	327.6人	485.5人	328.0人
高等学校	781.4人	623.2人	829.3人	631.8人
特別支援学校	199.1人	120.4人	196.5人	127.5人

出典：平成23年度学校基本調査、平成29年度学校基本調査

○なお、教育費の8割を人件費が占めており、愛知県の教職員の若返りが他県に比べ顕著であることから、人件費は圧縮傾向にあり、その分、予算も縮減される傾向にあるといえます。

## 《「教育懇談会」の開催》

- ◆ 教育・人材育成を取り巻く主要テーマについて、知事が有識者から幅広く意見を聴取し、施策に反映



- ◆ 「公立高等学校入学者選抜制度」を2017年度入学者選抜から変更  
学力検査の時間延長・配点増加、入試日程を短縮、群・グループ分けの見直し等
- ◆ 「愛知県特別支援教育推進計画」を策定（2014.3）
- ◆ 「県立高等学校教育推進基本計画」を策定（2015.3）

## 《県独自の少人数学級の実施》

- ◆ 国の制度（小学校第1学年(2011～)・小学校第2学年(2012～)）に加えて、愛知県独自に、中学校第1学年においても少人数学級の実施を拡充実施

### 《愛知県の少人数学級の実施状況》

少人数学級実施対象	開始年度
小学校第1学年	2004～
小学校第2学年	2008～
中学校第1学年	2009～

## 《理数教育の推進》

- ◆ あいちSTEM教育推進事業の実施
  - \* 研究指定校による理工系大学と連携した教育課程の研究、教材開発等（2017～）
  - \* 「あいち科学の甲子園」など、中高生を対象とした科学コンテストを開催
  - \* 高校生の科学研究成果発表会「科学三昧 in あいち」を開催
- ◆ スーパーサイエンスハイスクール指定校における科学技術系の人材育成（2018年現在 7校）

## 《愛知総合工科高等学校の開校》

- ◆ 愛知の工業教育の中核を担う新たな工業高校を東山工業高校跡地(名古屋市千種区)に開校（2016.4）
  - \* 本科(修業年限3年)及び専攻科(修業年限2年)を設置
  - \* 大学・産業界と連携した実践的なものづくり教育を実施
  - \* 専攻科において、全国初の公設民営化し、学校法人名城大学が指定管理者として運営開始（2017.4）



愛知総合工科高等学校の開校

## 《日本語指導が必要な児童生徒への支援の拡充》

### ◆ 日本語教育適応学級担当教員の配置

年度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
配置数	300人	323人	323人	362人	415人	446人	489人	542人

### ◆ 語学相談員の派遣

\* 県教育事務所に配置し、小学校を訪問支援。2014年度以降順次増員、2018年度は、11人（ポルトガル語4、スペイン語4、フィリピン語3）

### ◆ 外国人生徒の高等学校入学者選抜における配慮 \*2016年度入試から、対象校4校を9校に拡大

### ◆ 県立高等学校における外国人生徒教育支援員の配置拡充

年度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
支援員配置数	35人	36人	54人	55人	60人	79人	89人
被支援生徒数	120人	153人	204人	238人	244人	329人	360人

## 《教育機会の確保》

### ◆ 児童自立支援施設 愛知学園への学校教育導入

\* 愛知学園内に春日井市立尾東小学校・尾東中学校を開校（2018.4）

## 《いじめ対策の強化》

### ◆ 24時間いじめ電話相談（子どもSOSほっとライン24）の充実（関係機関との連携、相談員の研修など）（2012～）

### ◆ 県警と教育委員会との連携強化 ⇒ 相互の情報提供や連携した指導の実施を定めた協定書を締結（2014.2）

### ◆ いじめ防止対策推進法に基づく「愛知県いじめ防止基本方針」を策定（2014.9）

### ◆ 愛知県いじめ問題対策連絡協議会、愛知県いじめ問題対策委員会、愛知県いじめ問題調査委員会の開催（2014～）

## 《通学路における交通安全対策》

- ◆ 「通学路の交通安全に関するプロジェクトチーム」を設置（2012.5）
- ◆ 県警等関係機関と連携し、危険箇所に対する緊急合同点検を実施（2012～）
  - \* 対策危険箇所：4,693か所、H27年度末までに4,542か所を対策済み  
（通学路等の歩道整備、防護柵の設置、路肩カラー塗装等の整備）
- ◆ 全市町村で「通学路交通安全プログラム」を策定（2015）
- ◆ 「ゾーン30」の整備（2011～）
  - \* 時速30kmに速度規制するゾーンを設け、規制表示や車道を狭める狭さくなどの速度抑制対策を実施
- ◆ ドライバー等に対する積極的な普及啓発
- ◆ 国に対して車両運転中の「ながらスマホ」の対策強化を要請（2016～）

## 《県立学校整備費を拡充》

- ◆ 2018年度中に、県立学校施設長寿命化計画（計画期間：2019～2029年度）を策定し、老朽化対策を着実に進める。
- ◆ さらに、長寿命化計画の一部を前倒し、2019～2023年度までの5年間で、普通教室棟及び管理棟の全ての湿式床トイレ2,094か所の全面改修（乾式化・洋式化）を進め、トイレ環境を抜本的に改善。

### 《県立学校トイレ改修スケジュール》

	種別	2019	2020	2021	2022	2023	合計
トイレ箇所数	高等学校	設計	510	375	436	423	1,744
	特別支援学校	設計	88	79	82	101	350



## 《県立学校の耐震改修》

〔総耐震改修費：972億円〕

### ◆ 耐震性能が低いCランク、Bランクの建物の耐震改修を実施 〔事業費：921億円〕

耐震化率(2016)：100%（着工ベース）

（※ 耐震化率：全棟数のうち耐震性を確保している棟の割合）

区分	全棟数	耐震改修対象	耐震改修の実施済棟数（着工ベース）								
			1996～2006	2007～2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	小計
高等学校	1,167	689	209	116	37	65	80	71	55	56	364
特別支援学校	222	52	23	24	3	1	0	0	1	0	5
計	1,389	741	232	140	40	66	80	71	56	56	369

※2017年度ですべての県立学校の耐震化を完了

【参考：耐震性能】

建築時期	診断結果	Is値	耐震性能
昭和56年以前	Aランク	0.7以上	倒壊、又は崩壊する危険性が低い
	Bランク	0.3以上0.7未満	倒壊、又は崩壊する危険性がある
	Cランク	0.3未満	倒壊、又は崩壊する危険性が高い
昭和57年以降	新耐震基準		

### ◆ 体育館吊り天井の耐震対策を実施 〔事業費：32億円〕

耐震対策率(2016)：100%

（※ 耐震対策率：吊り天井を有する体育館のうち耐震対策を実施した棟の割合）

区分	吊り天井を有する体育館棟数	耐震改修の実施済棟数（着工ベース）				
		対策不要	2014	2015	2016	計
高等学校	62	1	2	28	31	62
特別支援学校	1	0	0	1	0	1
計	63	1	2	29	31	63

### ◆ 武道場等吊り天井の耐震対策を推進（2017～2022） 〔事業費：19億円〕

旭丘高校始め28棟工事、惟信高校始め27棟の設計実施（2018）

## 《東三河地域における特色ある学校づくり》

・東三河地域の活性化や将来の担い手育成に資するため、2020年度を目途に特色ある高等学校づくりを推進

### 【新城有教館高校】

2019年度から新城東高校と新城高校を統合し。  
文理と専門に7つの系列を置いた新しいタイプの総合学科を設置  
— 生徒のニーズに応える多彩な教育を実践 —

【文理系】 理数系列、文科系列、国際・教養系列

【専門系】 食農サイエンス系列、園芸デザイン系列、  
ビジネス創造系列、生活創造系列

### 【時習館高校】 (2020年度から5年間実施)

「あいちグローバルハイスクール」(新規)に指定  
— SSH、SGHの実績を活かした世界で活躍する人材育成 —

文部科学省のSGH(スーパーグローバルハイスクール)を継承する高校生  
国際交流事業を立ち上げ、2020年度から新たに指定校とする。

- ◆ 自校生徒及び他の県立高校生徒による海外高校生との交流の実施
- ◆ 日常的に海外高校生と討論できる教育環境の整備
- ◆ ネイティブスピーカーとの連携指導に基づく、英語による理数分野の研究発表の実施
- ◆ オールイングリッシュでの理数科目の実施 等

### 【豊橋工業高校】

本県初の「ロボット工学科」を設置  
— 東三河地域の工業教育の拠点におけるSTREAM教育の推進 —

STEM教育「あいちSTEMハイスクール」を発展させた、「プロジェクト型のSTREAM教育」を実施

【現在】  
電子機械科、電子工学科

【2020年度～】  
ロボット工学科

STREAM教育=STEM  
+R(Robotics、ロボティクス(ロボット工学))+A(Art、アート(芸術・デザイン))

### 【豊橋西高校】

豊橋市内初の総合学科を設置  
— 学科改編による学校の活性化 —

情報活用コースや国際理解教育等の成果と生徒のニーズを踏まえた系列  
を設置

【現在】  
普通科  
情報活用コース設置校  
外国人生徒選抜実施校

【2020年度～】  
総合学科  
〔設置予定系列〕  
理数系列、情報メディア系列、  
人文社会系列、国際文化系列  
健康スポーツ系列 など

### 【渥美農業高校】 (2020年度から5年間実施)

「あつみ次世代農業創出プロジェクト」の推進  
— 全国1位の農業産出額を誇る田原地域を担う農業後継者の育成 —

技術革新に対応し、環境に配慮した持続可能な農業の取組  
世界を視野に入れた新たな農業経営にチャレンジできる後継者の育成

- ◆ スマート&エコロジーファームの実現 ⇒IT技術や再生可能エネルギーの活用
- ◆ 6次産業化の推進 ⇒新しい時代の農業経営者を育成
- ◆ GAP(農業生産工程管理)認証取得⇒世界品質の農産物を生産

## 5

## 女性の活躍促進

女性が活躍し、女性が元気に働き続けられる愛知の実現に向けた取組を推進！

《あいち女性の活躍促進プロジェクトの展開》

◆ 「女性が元気に働き続けられる愛知」の実現を目指し、働く場における女性の「定着」と「活躍」の拡大に向け、宮本副知事をリーダーとする庁内プロジェクトチームを中心に「女性の活躍促進プロジェクト」を積極的に推進

定

- ◇ 「あいち女性の活躍促進会議」を開催（議長：知事、経済団体・労働団体のトップで構成）（2014.2～）
- ◇ 「あいち女性輝きカンパニー」の認証（2015～）
- ◇ 「女性の活躍プロモーションリーダー」と連携した中小企業等の取組促進（2018～）
- ◇ 「愛知県女性の活躍促進奨励金」の支給（2015～2017）
- ◇ 女性の活躍促進サミットの開催（2015.10、2016.12、2017.11、2018.11）
  - \* 企業経営者等の意識改革を図るため、講演会やパネルディスカッションを実施
- ◇ 地方銀行と連携した中小企業等の取組促進（2017）
  - \* 銀行の窓口や渉外担当者を通じて、取引先企業等に対する県施策活用の働きかけの実施
- ◇ イクメン育成のけん引役（イクメンキュレーター）の養成（2017～）、アドバイスブックの作成（2017）
- ◇ あいち子育て女性再就職サポートセンター（ママ・ジョブ・あいち）の運営（2014.5～）
  - \* 出産・育児等で離職した女性を対象とした、相談、職場実習等を実施
- ◇ あいち・ウーマノミクス研究会の開催（2015.7～）
- ◇ 女性ビジネスプランコンテストの開催（2016～）
- ◇ 病児・病後児保育の整備促進（2016～）
  - \* 病児保育施設の整備に係る費用を補助（2016：1施設、2017：1施設、2018：2施設（予定））

着

活

躍

- ◇ 理系女子応援事業の実施
  - \* 「理系女子進路選択支援シンポジウム」の開催（2014～2016）
  - \* 「女子中高生の大学・企業取材ツアー」及び「成果発表会」の開催（2017～）
- ◇ 「女性管理職養成セミナー」（2014～）、「働く女性の交流ビュッフェ」の開催（2015～2016）、「女性管理職の交流カフェ」の開催（2017～）
  - \* 管理職として将来活躍する人材を育成するためのセミナーや働く女性同士の交流会を開催
- ◇ 中小企業の女性の活躍支援（2016～）
  - \* 中小企業の好事例や取組手法等をまとめたハンドブックの作成、セミナーの開催
- ◇ 大学生のキャリアプラン形成推進（2016～）
  - \* 女子大学生等の就業継続を前提としたキャリアプランや職業観の形成等を支援するための啓発資料の作成、セミナーの開催
- ◇ 農業分野での女性活躍支援
  - \* あいち農業女子交流会の開催（2016～）、「女性農業者実践活動支援事業」（2018～）

日本一の集積を誇る愛知の産業を支える人づくりと雇用・就業促進の取組を推進！

### 《産業人材の育成・確保》

- ◆ 「あいち夢はぐくみサポーター」事業の実施（2011～）  
\* 小・中・高・特別支援学校と県内企業等が連携し、職場体験やインターンシップの受入等を実施（登録事業所：1,577）
- ◆ 県立高等技術専門校における知的障害者を対象とした職業訓練（2017～）
- ◆ 中小企業の青年技能者が参加しやすい「町工場技能者コンクール」を開催（2013～）
- ◆ 「第23回全国産業教育フェア愛知大会」を開催（2013.11）  
\* 専門高校における学習成果を紹介（395校・団体参加（うち県内109校））
- ◆ 産業人材育成ポータルサイト「ひと育ナビ・あいち」を開設（2016.3）
- ◆ 「愛知県産業人材育成支援センター」を開設（2016.4）
- ◆ 産業人材育成連携コーディネーターによる支援（2016～）
- ◆ 「あいち経営者人材育成塾」（森岡塾）の開講（2016～）
- ◆ 名古屋市科学館に名古屋市と共同で「ノーベル賞受賞者顕彰施設」を整備（2020完成予定）
- ◆ 中小企業等に講師を派遣する「あいち技能伝承バンク」を開設（2018.7）
- ◆ 外国人材の受入れに係る受入れ業種について国に要請（2018.6、7）

### 《グローバル人材の育成・獲得》

- ◆ アジア諸国から「愛知のものづくりを支える留学生」を受入（2013～）
- ◆ 県内12地区の県立高校各1校を「あいちスーパーイングリッシュハブスクール」に指定（2013～）
- ◆ 「イングリッシュキャンプ in あいち」を実施（2013～）
- ◆ 高校生の海外チャレンジ促進（生徒が企画提案した短期留学等の費用を助成）（2013～）
- ◆ 友好交流及び相互協力に関する覚書締結地域との高校生交流（2013～）

## 《雇用・就業促進》

- ◆ ハローワーク等と連携した合同企業説明会を開催
- ◆ 「障害者雇用促進トップセミナー」を開催
- ◆ 障害者雇用優良企業等を知事表彰
- ◆ 「障害者ワークフェア」の開催（2013～）
- ◆ 「愛知県内一斉ノー残業デー」街頭啓発活動を実施（2012～）
- ◆ 「あいち女性子育て再就職サポートセンター」を開設（2014.5）
- ◆ 「人が輝くあいち・イクボス宣言」を実施（2015.8）
- ◆ 「あいち仕事と生活の調和行动計画2016-2020」を策定（2016.2）
- ◆ 「愛知県政労使協議会」を開催（2015～）
- ◆ 「愛知県地域しごと支援センター」を開設（2015.9）  
※現在は「あいちUターン支援センター」として運営
- ◆ 「愛知県プロフェッショナル人材戦略拠点」を開設（2015.12）
- ◆ 東京圏及び関西圏の大学と就職支援協定を締結（2018）

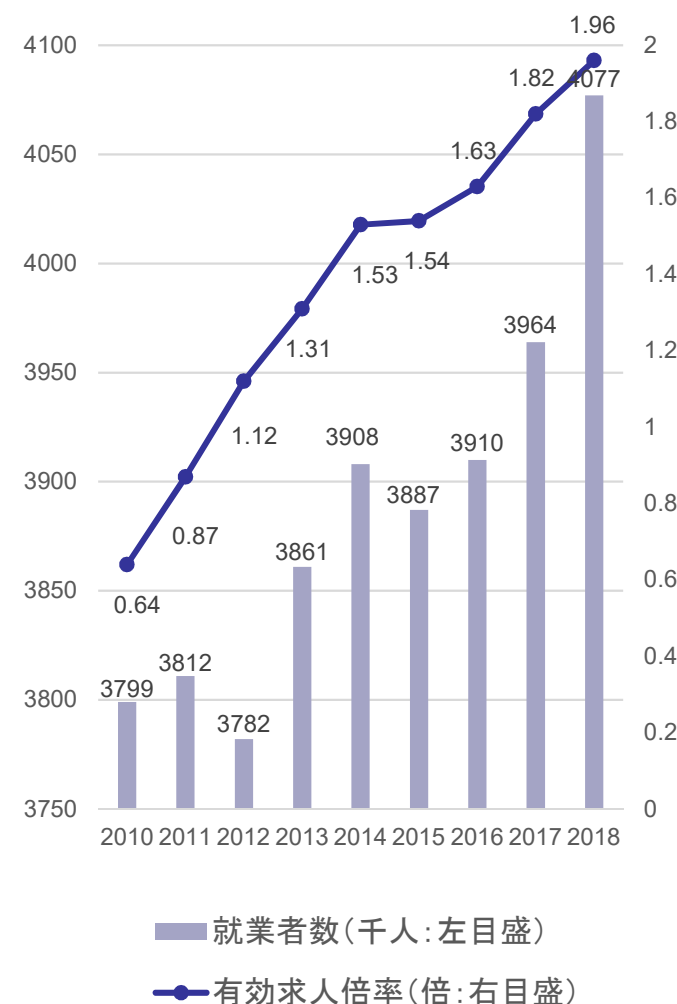
### 《就職支援協定締結大学》

締結月	東京圏	関西圏
7月	東海大学、法政大学、明治大学 立教大学	関西大学、京都産業大学、近畿大学 同志社大学、立命館大学
12月	青山学院大学、専修大学、創価大学 共立女子大学・共立女子短期大学 創価女子短期大学	関西学院大学、京都女子大学 京都橘大学

## 《農林水産業の担い手確保》

- ◆ 「農林漁業就職フェア」（県・愛知労働局・農業水産業関係団体共催）を開催
- ◆ 県農林水産事務所に「農起業支援センター」を設置（8か所（2012～））

### 《愛知県の就業者数・有効求人倍率》



※就業者数(2018)は直近四半期(7～9月)の平均値  
有効求人倍率(2018)は1～10月の平均値



## 《技能五輪・アビリンピック》

- ◆ 技能五輪全国大会において、14年連続で最優秀技能選手団賞を受賞中（2005～2018）
- ◆ 全国アビリンピックにおいても、メダル獲得数で上位（1位又は2位）の成績を獲得（2010～2018）
- ◆ 「技能五輪・アビリンピックあいち大会2014」を開催、過去最多の約29万人の来場者
- ◆ 2019年度・2020年度技能五輪全国大会・全国アビリンピックの開催決定
- ◆ 2023年の技能五輪国際大会の開催地に日本・愛知が正式に立候補表明（2018.10）

### ＜技能五輪全国大会における実績＞

開催年度	第43回 (2005)	第44回 (2006)	第45回 (2007)	第46回 (2008)	第47回 (2009)	第48回 (2010)	第49回 (2011)	第50回 (2012)	第51回 (2013)	第52回 (2014)	第53回 (2015)	第54回 (2016)	第55回 (2017)	第56回 (2018)
競技職種数	43職種	45職種	43職種	39職種	40職種	39職種	40職種	40職種	40職種	41職種	41職種	41職種	42職種	42職種
愛知県入賞	18職種	19職種	20職種	21職種	21職種	19職種	23職種	20職種	25職種	29職種	26職種	25職種	25職種	29職種
うち金賞	6職種	9職種	12職種	11職種	12職種	7職種	11職種	13職種	10職種	12職種	10職種	11職種	8職種	14職種
全国順位	1位	1位	1位	1位	1位	1位	1位	1位	1位	1位	1位	1位	1位	1位

### ＜技能五輪・アビリンピックあいち大会2014の概要＞



	第52回技能五輪全国大会	第35回全国障害者技能競技大会 (アビリンピック)
	「技能五輪・アビリンピックあいち大会2014推進協議会会長賞」を両大会で愛知県選手団が獲得！ 女性が最も活躍した選手団に授与する「技能五輪アビリンピックあいち大会2014推進協議会会長賞」を創設	
競技日程	2014年11月28日～12月1日	2014年11月21日～23日
参加選手	1,200名（41職種）	332名（24種目）
来場者数	22万人（過去最多）	6万9,000人（過去最多）



第52回技能五輪全国大会閉会式



第35回全国アビリンピック閉会式

## 《多文化共生の推進》

- ◆ 「日本語学習支援基金」を再造成し、外国人の子どもへの学習支援を継続（2016～）
- ◆ 「あいち医療通訳システム」の運用（2012～）

## 《ESDユネスコ世界会議の開催とその理念の継承》

- ◆ 世界会議を契機とし、愛知万博やCOP10の開催成果を継承した持続可能な社会のための人づくりを積極的に推進

世界会議の概要	閣僚級会合、全体会合、フォローアップ会合等（2014.11・名古屋市）
参加国・地域	153の国と地域から閣僚級76名を含む1,000人以上が参加
* 世界中にESDの更なる強化と拡大に向けた行動を求める「あいち・なごや宣言」を採択 * 「ESDあいち・なごや子ども会議」の開催	



「ESDユネスコ世界会議」開会全体会合

- ◆ 愛知県ユネスコスクール交流会の開催（2015～）  
\* ユネスコスクール168校（2018.7現在 うち1校は申請中）
- ◆ 大学生が企業の環境課題の解決策を提案する「かがやけ☆あいちサスティナ研究所」の実施（2015～）
- ◆ 「インタープリター愛・地球ミーティング」の開催（2015.10）
- ◆ 未就学児童に自然とふれあう体験を提供する「もりの学舎（まなびや）ようちえん」等の実施（2016～）
- ◆ 高校生が環境課題を調査研究し、環境学習教材を作成する「あいちの未来クリエイト部」の実施（2017～）